

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2693500098		
法人名	社会福祉法人 楽慈会		
事業所名	グループホーム加茂ぬくもりの里 ささゆり		
所在地	京都府木津川市加茂町里宇留志40		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	令和5年7月27日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;ijgyosyoCd=2693500072-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;ijgyosyoCd=2693500072-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
所在地	京都市右京区西院久田町5番地
訪問調査日	令和5年3月9日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

コロナ感染拡大及び、運営する法人が変わったことにより、地域とのかかわりは薄まりましたが、スタッフのご利用者に対するケアは変わらず、質の高い、その人自身を尊重したケアが提供できています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

加茂ぬくもりの里は、平成25年10月に設立された2ユニットからなるグループホームです。四季の変化や園芸が楽しめる庭もあり、内部は木のぬくもりが感じられます。2階には小規模多機能型事業所が併設されています。立地は、JR奈良線加茂駅からほど近い地域に位置し、閑静な住宅街にあります。コロナ禍において様々な制限のある中、利用者の支援については、本人や家族の思いに寄り添ったチームケアの実現に取り組まれており、状態変化のあった場合には近隣に法人の施設が複数あるため待機することなくスケールメリットを生かして連携できるのが特色です。コロナ禍以前は、キャラバンメイトの活動や幼稚園等の見学や交流など地域とのかかわりも積極的に行っていました。また、1階の交流室を地域に開放し認知症カフェの開催や認知症安心サポート相談窓口として、常に地域に貢献することを意識して来られました。こうした地域とのつながりは入居者にとって楽しみある生活づくりに繋がっています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者が事業計画を作り、理念を全職員で共有に努めている。	法人理念を事務所内に掲示すると共にパンフレットに記載している。以前は朝礼で唱和していた。新採時はチェックリストで周知を図っている。事業計画作成の過程で職員ヒアリングを行って反映し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ等で利用者がp地域とつながりが出来ていない。	コロナ渦以前は保育園との交流やカフェなど積極的に地域交流を図っていた。現在認知症カフェを再開する予定で、どのようにして再開していくか検討中である。近隣に月1回のイベントでドライブなど出かけたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症安心サポート相談窓口を設置し、地域の人母とに向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会を2ヶ月に1回開催し、報告や話し合いをしている。	現在は2か月に1回書面開催という形で開催し、後に書面で意見をもらい、返信している。メンバーは行政担当者、地域包括、家族、民生委員等で、コロナ渦の中で励ましなどをもらうこともある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアマネジャーが市町村担当者と密に連絡を取り協力関係に取り組んでいる。	市高齢介護課や市地域包括支援センター等の各担当者が運営推進会議のメンバーとして参加している。資料を持参したり、コロナ関連等の相談したり、コミュニケーションをとり合い、顔の見える関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0推進委員会を設置し、年2回学ぶ機会をしている。	法人全体で、各事業所代表者が出席する身体拘束ゼロ委員会を設置し、毎月開催している。法人内で虐待・身体拘束にかかる研修を年2回開催している。センサーの使用もない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナの影響もあり、リモートでの勉強会も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様に見学や説明をさせていただき、契約時には重要事項説明書でしっかり説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	華族様の意見や考えを聞き、運営に反映している。	面会時、運営推進会議時に聞き取りを行っている。電話でのやりとりも行っている。以前は、地域関係団体を集めて懇親会、そのあとに家族会を行っていた。利用者には担当者を中心に聞き取り、気づきを大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	らくじポータルサイトで職員から意見など聞いている。	各事業所会議、全体職員会議、所長会議、運営会議があり、階層別に職員の意見を吸い上げる仕組みがある。職員面談を年2回行っている。らくじポータルサイト(独自)によって意見を聞けるようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き、やりがいのある向上心を持って働けるよう、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナによりリモートで勉強会、各部署で新人職員の研修会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響で交流する機会ができていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の生活歴や意向を伺い、24時間シートやライフサポートシートを活用し、ご本人の思いに近づけるように関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様から不安、要望があるときはいつでも話せる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症安心サポート相談窓口として、認知症に関する相談を受け付けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が生活の主体となるように支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様ご本人の思いを報告、相談し、ともに支援していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響により面会も中止になったが、今は一組15分(一日3組まで)ご家族様に会って頂いている。	コロナ以前は近所の床屋を利用していた人もいたが制限している。面会は1組15分1日3組で家族等と面会を行っている。関係が途切れないように年賀状のやりとりの支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を把握し、テーブルや座席の位置にしている。孤立する利用者が出ないように、職員が仲介に入り、ともに安心して生活できるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナで行えていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常での会話や関わりの中から思いや希望を聞かせていただいている。情報収集のため、「私の姿、気持ちシート」も使用している。	「生い立ちシート」「私の姿、気持ちシート」を活用し、これまでの暮らしなどや家族からの聞き取りをふまえて作成している。また、日常の中で表情やしぐさ、聞き取りなどから思いを把握し、職員間で情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から、生活歴やなじみの暮らし方、生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のかかわりの中で心身状態、言動、様子を記録し、申し送りや会議で情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時にカンファレンスを行い6か月に一回、状態が変わった時などケアプラン評価、見直しを行っている。	担当者を中心に主治医(往診)、看護師とも連携して半年に1回、評価・更新をしている。「ほのぼの」の様式、記録などを行い、職員間で情報共有を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付きは日誌や申し送りノートに記入し、タブレットでも情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者に分かりやすく、丁寧なケアに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はしているが、現状はそれを活用するのはコロナ禍のためできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要時にかかりつけ医と連絡を取っている。他科、専門医への受診はご家族様に依頼している。	18名中1名が法人、17名が従来からのかかりつけ医(内科、歯科)となっている。専門医の受診は家族が原則、同行しているが、必要に応じ職員が同行し、家族とはメール、手紙等で情報共有、連携をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で、変化や体調不良等に気づいた時は看護師に相談し、処置や受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設よりサマリー提供している。退院前には面会に行き、家族様や病院と連絡を取り、退院前カンファレンスに参加して、退院後の利用者のケアに取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合、適切なケアができる場所でケアを行うとの法人の方針もあり、機会を持ち、家族様と話し合うようにしている。	入所時に重要事項説明書をもとに、重度化した場合の対応について説明したうえで、看取り介護についての同意書もらっている。その後、本人の状態変化に応じて家族と話し合っている。ブリーフケアの取り組みとして偲ぶ会を2年に1度行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は緊急時の連絡方法は理解しているが、コロナで訓練はできていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回火災を想定した避難訓練を実施し、災害時の対応を身に付けている。非常食の備蓄も行っている。	年2回火災を想定した避難訓練を行っている。他、水害にかかる訓練も行っている。職員が地元消防団に入っており、消防団の協力を得て訓練を行っている。福祉避難所の指定を受けている。非常食等の備蓄もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーや自尊心を傷つけないように言葉かけや対応を職員各々が心掛けている。	法人理念に則って法人で接遇の研修を行っている。また、チェックシートを定期的実施してその結果を活用しプライバシーの配慮に努めている。失禁時や入浴時には、隠語を使った対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望を聞いて、答えが出ない時は表情や態度などから思いをくみ取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて、体調やその日の状態、希望に合わせて過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装の提案と介助を行っている。選べる方は一緒に選び訪問美容を利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューをホワイトボードに書き出し、楽しみになっている。利用者様には食べ終わった食器をお盆において頂き、テーブル拭きもして頂いている。	メニューをホワイトボードに書いて日々、楽しめる工夫をしている。利用者には食事の準備等できることを手伝ってもらっている。誕生日食、行事食(おせちなど)、手作りおやつ、きざみ、とろみなど柔軟に食事提供をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一食量日の、水分量をチェックし、その方にとって必要な栄養を取っていただいている。食事量が少ない方には医師と相談して高カロリー食で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや介助にて口腔ケアを実施し、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、排泄パターンの把握に努め、タイミングを計って「トイレの声掛け、誘導を行っている。	排泄チェック表の記録を活用して個々の排泄パターンを把握して声掛け、誘導の支援をしている。パットは昼用と夜用を分けてその人に合ったものを使用している。トイレにはファンレストテーブルを設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の提供、水分の提供、腹部マッサージを行い、服薬による排便が出るようにここに応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的に入浴して頂き、時間帯に希望があれば「、変更して個々に応じた入浴を支援している。	週2回午後を基本としているが、希望があれば柔軟に対応している。リフト浴も設置している。しょうぶ湯やゆず湯を使用し楽しめるようにしている。拒否される場合は無理強いつせず曜日や時間帯を変えたり工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や状況に応じて、朝、昼臥床して頂いている。週一回のシーツ、パジャマ交換を行い「、気持ちよく寝て頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の時に呼名確認、服薬確認を行い、誤薬や飲み忘れのないように服薬チェック表に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、お米とぎ、縫物など個々の能力が発揮できるように支援、歌を歌う、脳トレのレクリエーションなど気分転換を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	令和4年、お花見や紅葉見物に出かけました。また、春など天気の良い暖かい日は中庭に出て日向ぼっこをしている。	コロナ禍において散歩等制限がある中で「一回イベント(外出等)」を位置付けており、担当者を決めて月一回出かけるようにしている。昨年はお花見や紅葉見物に出かけ今年も同様に予定している。天候によっては中庭で日向ぼっこをするなど外気に当たるように工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	混乱やトラブルの原因にもなりかねないので、現金の所持や使用は難しい。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様より電話があったときはご本人につないでいる。(ご本人と話したいと希望あり)手紙が来た時も本人にお渡しし、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は毎日掃除、2時間に1回、10分喚起を行い、清潔にしている。フロア、廊下に季節に応じた飾りつけをして、心地よく過ごして頂いている。	室内共用部分は淡い色調の壁と木目のコントラストが美しく、柔らかい間接照明の光と自然光がマッチして落ち着いた空間となっている。全体的に掃除が行き届いて清潔感があり、換気も定期的に行われて、利用者が快適に思い思いに過ごせる場でもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	、憩いスペースで一人になったり、フロアで他の利用者様と話をしたり、楽しく過ごして頂けるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にできるだけ本人の使い慣れたものを持ってきて頂き、居心地の良い生活をして頂いている。	広いスペースに備え付けのベッド、洗面台が設置され、さらに家族の協力を得てなじみの家具が持ち込まれたり家族の写真や思い出の品も飾られ、本人がくつろげるプライベートな居場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活して頂けるようADLに合わせ、L字バー、安全柵、入浴台、トイレのファンレストテーブルを設置、安全で自立した生活を送れるように支援している。		